

うるおい木曾

Vol.30
2008・1月

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年は少雨傾向にあり、春先、夏場と渇水・日照りのご心配をおかけしましたが、適度な雨にも恵まれ、晴れば渇水、降れば洪水という気象変動の激しい昨今ではありますものの、皆さまのご協力のおかげで、大過なく新年を迎えることができました。まことにありがとうございました。

本年、平成20年は、水資源機構となり丸5年を迎える年でもあります。水資源については、世界的に人口増加、地球温暖化による水不足、さらには水を発端とする食糧問題発生への懸念など、急激に価格高騰している石油などのエネルギー問題とともに重要な課題となっています。

「開源節流」という古の言葉がありまして、「水源地にダムや用水路を整備して、水流の調節を図ること。また、支出を抑制、節約して収入の確保を図り、健全財政を確立することにもたとえる。」との意味であるそうです。まさに皆さま方に支えられこれまで努めてきた私ども水資源機構を現す成句であり、今後も水問題にしっかりと向き合っていくことへの思いを強くさせられます。

Q&Aコーナー

このコーナーは、専門用語等の解説を分かりやすく説明するコーナーです。参考にしてください。

Q: 木曾川大堰には、いろんなゲート(水門)があるみたいだけど、どんな役割があるの？

A: 木曾川大堰は延長735.03m(可動堰延長586.80m)あり、管理所がある愛知県稲沢市【左岸側】と対岸の岐阜県羽島市【右岸側】の2県にまたがっており、管理所側からゲートは、以下のように設置されています。(橋の上には県境があります！)

木曾川大堰における各ゲートの役割は、次の通りです。

ゲート名称	ゲートの役割
魚道ゲート	魚・カニ等の生物が大堰の下流から上流(遡上)、上流から下流(降下)へ行き来できるように設置されています。
土砂吐ゲート	堆積土砂の掃流を行うために設置されています。洪水時は、下段扉を開けて放流(アゲ-70-[下から流す])します。
調節ゲート	通常は、大堰の上流水位を一定の範囲内に保つために上段扉から越流(オバ-70-[上から流す])させています。洪水時は、下段扉を開けて放流(アゲ-70-[下から流す])します。
船通しゲート	漁船を下流から上流、上流から下流へ航行させるために設置されています。(堰の上流と下流では水位差が大きいので、上・下流のゲート間で水位を調整して通航してもらっています。)
洪水吐Aゲート 洪水吐Bゲート	名前の通り、洪水時に開けて放流(アゲ-70-[下から流す])します。



現在、日本でも、適時適切な対策により施設の長寿命を図り、維持管理も含めたトータルコストを低減しようとする「ストックマネジメント」の考え方が進展しています。また、失敗が許されない施設管理では、規定された厳格な操作が求められる反面、時代の変化に対応した運用・管理が求められてきています。

このことも念頭に置きつつ、本年も木曾川用水、長良導水の安定供給をとおして、愛知、岐阜、三重の関係地域の水の架け橋としての役割を果たしていくことに努めてまいりますので、皆さま方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



木曾川用水総合管理所長

たけうち もとむ
竹内 求



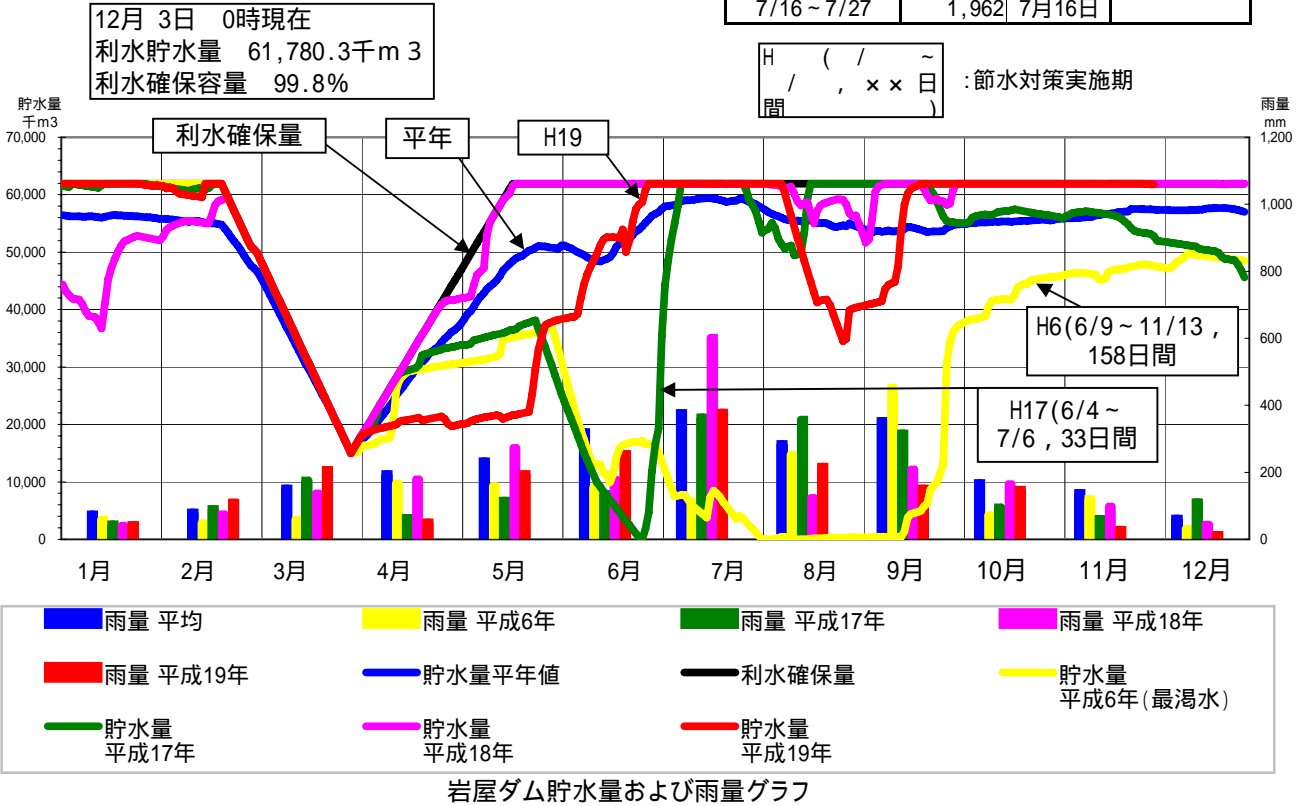
大堰の歩道にある県境

平成19年の出水状況について

平成19年の木曾川大堰洪水吐ゲート操作は、1月から12月まで19回(昨年15回)ありました。その内訳は、500m³/sまでが10回、500~1,000m³/sまでが4回、1,000m³/s以上が5回でした。

下流への放流(1,000m³/s以上)

期 間	最大放流量		備 考
	(m ³ /s)	月日	
3/25~4/7	1,981	3月25日	全門全開
5/25~5/26	2,012	5月26日	
5/26~5/29	1,558	5月26日	
7/14~7/16	4,262	7月15日	全門全開
7/16~7/27	1,962	7月16日	



平成19年の取水実績について

木曾川用水管理事業の取水実績(1月1日から11月末日現在)は、約4.5億m³で昨年並みの取水量でした。用途別では、昨年に比べ農業用水が約1%減、上水が約5%減、工水は約4%増の取水量でした。(単位:百万m³)

区分	木曾川右岸		濃尾第二施設		長良導水		全 体		対前年比
	H18年	H19年	H18年	H19年	H18年	H19年	H18年	H19年	
農 水	38.1	36.6	179.3	177.7	-	-	217.4	214.3	99%
上 水	14.5	15.0	14.3	14.3	51.1	46.7	79.9	76	95%
工 水	0.6	0.7	158.4	163.9	-	-	159.0	164.6	104%
計	53.2	52.3	352.0	355.9	51.1	46.7	456.3	454.9	100%
対前年比	-	98%	-	101%	-	91%			

取水量は、1月1日から11月30日までの合計である。

第14回木曾三川公園リレーマラソンに参加

11月18日に木曾三川公園にて開催された「第14回木曾三川公園リレーマラソン」に木曾川用水チームとして参加しました。当日は、晴天に恵まれたのですが、強風のコンディションの中、158チームがエントリーし、ファミリーや学生、職場仲間など各チームが一致団結して42.195kmに挑んだ一日でした。大会は、開会セレモニー、準備運動と進められ、11時のスタート合図とともに一斉に選手が走りだしました。小学生の子供から元気なおじいちゃん、仮装で楽しませてくれる人など、選手だけでなく、会場に応援に来た全員が楽しめる和やかな雰囲気でした。

木曾川用水チームの結果は、タイムが3時間16分21秒、総合70位(158チーム中)、職場仲間部門30位(63チーム中)、といった満足のいく成績でした。



完走した高原選手



出場した選手たち

木曾川用水 滝沢トンネル内調査を実施

昨年度の「白宗トンネル」に引き続き、平成19年10月2日(火)に木曾川右岸施設の「滝沢トンネル(昭和48年11月完成)」について、内部劣化調査(大別3項目)を行いました。

- (1) 機構職員等による目視調査(全線約2km)
 コンクリート覆工の変状(クラック・施工継目、漏水等)
 コンクリート圧縮強度
 流出バルブ・ウイブホールの作動状況



- (2) 背面空洞調査
 覆工コンクリートアーチ部に電磁波を照射し、反射波の強弱や位相の反転状況を受信することで、空洞の有無を判定する。



- (3) 導水路壁面連続画像計測(0.4km)
 トンネル壁面の変状発生状況をレーザースキャニング法による計測を実施。壁面にレーザー光を照射し、反射光の強弱を受信することで、壁面の画像撮影を行い、データをデジタル画像化する。



現時点(解析中)では、部分的な空洞(施工当初からと判断)があり、若干のクラックも確認されましたが、致命的な問題は全くと判断しています。なお、シュミットハンマーによる圧縮強度を測定した結果からも平均34.7N/mm2(設計強度21 N/mm2を下回る箇所無し)と大変良好な状態であるといえます。

但し、経年的な観察の継続及び空洞部への充填工の検討等を引き続き実施していきます。最後に、本調査に伴い、取水停止や減量操作に御協力頂いた関係各位に改めてお礼申し上げます。

木曾川用水の管理業務体験学習会を開催

11月28日(水)に地元稲沢市立長岡小学校4年生を対象とした木曾総管体験学習会を開催しました。「見学コース」では木曾川用水の概要説明、所長業務の体験(決裁体験)、操作室での業務説明、屋上からの施設見学、「体験コース」では除塵機による除塵作業、水道水・海部幹線水路の水・排水路の水について簡易水質観測を体験しました。

児童は木曾川用水の役割などについてメモしたり、ちょっと照れながらの決裁体験、操作室の周辺機器に興味を持ったり、屋上から見る木曾川大堰の大きさに驚いた様子でした。また除塵作業をUFOキャッチャー気分で楽しんだり、簡易水質観測を理科の実験をしているように真剣に取り組んでいました。



水質観測中



体験学習会に参加した児童



除塵機の操作体験



船通しゲート
操作体験



除塵機の施設説明



取水口に流れて来た
ゴミ



屋上からの大堰見学

インタビュー - シリーズ その3 (木曾岬町土地改良区)

諸戸 義男 氏

シリーズとして木曾川用水事業に関係の深い方へ訪問インタビューを行っております。

今回は、平成19年11月7日に、現在、木曾岬町土地改良区副理事長をされている諸戸義男様に話を伺いました。

Q: 木曾川用水事業の建設は昭和44年12月から13年間の歳月を経て、昭和58年3月に完成(暫定管理は昭和52年~)しましたが、完成以前の配水管理(水の使い方)と完成後の配水管理の状況を比較されて、どんな変化がありましたか?

A: 私が青年の頃(木曾川用水完成前)は、木曾川に設けた水門から直接、水を取水していたが、塩水遡上(潮の満干)による影響を受けるため、水門裏で水をすくって塩水の影響確認をしながら、うわみずである真水を水門から取水していました。水門の操作は集落からの2人づつ交代で行っていました。そのうちに木曾川から直接水を入れられなくなり、井戸を掘るようになりました。最初は地下水も高かったことから浅い竹井戸程度で良かったが、地下水が下がり、水中ポンプで水を汲み上げる鉄管井戸を使っただけの配水となりました。

現在(木曾川用水完成後)は、木曾川用水の水を使っているため、各バルブ等を操作すれば水が出る状態となっています。

Q: 昔の水に対する御苦労(水争い等)がありましたら教えてください頂けますか?

A: ここでは昔から集落による水争いは幸いありませんでした。私の所ではないのですが、地盤の低い地区(木曾岬町の南部辺り)では、排水の関連も伴い、農作業をするのに田の水がお腹を擦るくらいまできて、服がベタベタになってしまうなどの苦労をもらっていたのを聞いています。

Q: 本管理開始から24年経過しましたが、農産物の種類(生産過程)などに何か変化はありましたか?



諸戸 義男 氏(77才)
プロフィール
(現) 木曾岬町土地改良区
副理事長



地区内排水をする近
江島排水機場

A: 木曾岬の方では、米(銘柄:こしひかり)の生産が主です。農産物の変化としては、伊勢湾台風後、用排兼用から用排分離されたことも合い混じり、トマトや茄子など畑地灌漑作物を作られる方も出て来ています。

Q: どのくらい耕作をなされていますか?

A: 私の所では次郎柿が1反、レモンが30a、小麦が4反、稲作で約1町4反を耕作しています。

Q: 米以外に何か特徴のある農産物など作っておられますか?

A: 木曾岬町の方では変わった農産物は作っていませんが、見入地区では、観葉植物などの栽培が盛んです。

Q: 今後、水資源機構に望むことなどあれば教えてください。

A: ハウスや温室などもあるため、災害時に木曾川用水の水が1ヶ月から2ヶ月と長期に渡り来なくなると農家としてはパンクしてしまいます。他地区では、雨水を貯めてとか地下水でとか言う話もありますが、木曾岬の方では難しい状態です。木曾川用水の水が来なくなることがないように措置の方をお願いします。

インタビューに御協力頂き、誠にありがとうございました。

編集部
発行

独立行政法人水資源機構

木曾川用水総合管理所

〒495-0036 愛知県稲沢市祖父江町馬飼寺東26-1
TEL(0587)97-3710 FAX(0587)97-1482

最新情報はこちらへ

ホームページ <http://www.water.go.jp/chubu/kisogawa>
又は【うるおい木曾】で検索してください。



美濃加茂管理所 〒505-0021 岐阜県美濃加茂市森山町4-9-20
TEL(0574)25-2121 FAX(0574)28-3354

弥富管理所 〒498-0014 愛知県弥富市五明3-15
TEL(0576)65-1650 FAX(0576)65-0445

長良導水管理所 〒511-1143 三重県桑名市長島町西外面1026
TEL(0594)42-5671 FAX(0594)42-5674

施設見学をしませんか。事業の説明にも伺います。希望される方はお気軽に連絡して下さい。